



総研大ニューズレター

第111号 2017.10発行

●目次

【今月のトピックス】

平成29年度秋季学位記授与式を挙
行
長谷川学長一行がUSTを訪問

総務課
学融合推進センター・助教 内川明佳 他

プレスリリース

「明らかにになった幻の流星群の構造と親天体の活動度」
「江戸時代のオーロラ絵図と日記から明らかにになった史上最大
の磁気嵐」

広報社会連携室

学融合レクチャー

「結晶の対称性・群論－基礎コース－」
サマースクール2017「生命システムの時空間設計」開催報告
日本歴史研究専攻 公開講演会
JSPS サマープログラム報告会・送別会
科学研究費助成制度等説明会

物質構造学専攻・教授 神山崇
生理科学専攻・教授 西田基宏
日本歴史研究専攻
国際交流係
研究協力係

【受賞・学生プレスリリース情報】

【イベント情報】

10月イベント

10日-13日 平成29年度後学期フレッシュマンコース開催
19日-20日 学融合レクチャー「基礎デジタル計測制御演習」
23日-24日 生命科学リトリート
25日 国際日本研究専攻 大学院入試説明会
28日 遺伝学専攻 大学院説明会
29日 日本歴史研究専攻 大学院説明会

11月イベント

1日 情報学専攻 大学院説明会
2日 統計科学専攻 大学院説明会
3日 先導科学研究科 学術講演会（第20回）
11日 基礎生物学専攻 オープンキャンパス・大学院説明会
13日-15日 学融合レクチャー「プロジェクトマネジメント概論」
18日 2017年度生命共生体進化学専攻 講演会・説明会

※募集期間中の学融合レクチャーは、レクチャー情報(p.14)でご確認ください。

【今月のトピックス】

●平成29年度秋季学位記授与式を挙

9月28日(木)に総研大葉山キャンパスにおいて、平成29年度秋季学位記授与式が行われました。(修了生は、課程博士24名。論文博士2名。今回含め、これまでの修了生は、課程博士1,972名、論文博士251名。)式典では、修了生一人一人に、長谷川学長より直接学位記が手渡され、学長の式辞を真剣な面持ちで聞き入っていた修了生は、大学院生活を締めくくる授与式に、感慨もひとしおのようでした。最後に、修了生代表として加速器科学専攻のSigit Basuki Wibowoさんより謝辞が述べられ、閉式となりました。

なお、今回の各専攻の修了生内訳は下記の通りです。

比較文化学1名、国際日本研究2名(内1名が論文博士)、構造分子科学3名、機能分子科学1名、天文科学1名、核融合科学3名、加速器科学1名、物質構造科学1名、素粒子原子核論文博士1名、統計科学1名、情報学4名、遺伝学4名、生理科学1名、生命共生体進化学2名です。



【総務課】

● 長谷川学長一行が UST を訪問

8月17日（木）から18日（金）まで、長谷川学長を含む8名が韓国テジョン（大田）にある University of Science and Technology（科学技術聯合大学院大学校、以下 UST）のキャンパスを訪問しました。

17日には、USTの「オデッセイプログラム」の中で、USTの新入生を対象に長谷川学長による特別講演が行われました。このオデッセイプログラムは、USTが独自に実施している新入生を対象とした集中講義型プログラムで、総研大でも同様のプログラムとして「フレッシュマンコース」を実施しています。特別講演では「Challenge, Open-mindedness and Cultural Heritage: Reflections on my Research History」というタイトルで、学長の学生時代から現在に至るまでの経験や研究生活で感じたこと等が1時間ほどで話され、参加したUSTの学生たちは熱心に講演を聞いているようでした。学長の「Challenge is Fun」という言葉には、研究分野の違いを超えて、共感した学生が多くいたのではないのでしょうか。



長谷川学長の特別講演

翌18日には、出張者で3グループに分かれ、Korea Advanced Institute of Science and Technology（韓国科学技術院、以下 KAIST）の学長訪問と視察、及びオデッセイプログラムの視察、セミナーへの参加・発表を行いました。



長谷川学長(右)とUSTのKil-Choo MOON学長(左)

長谷川学長、永田理事及び内川は、KAIST本部を訪れ、学長及び国際連携担当教授と意見交換を行いました。その後、「Dr. M」という Integrated Mobile Health Technology の展示を見学しました。

先導科学研究科生命共生体進化学専攻の伊藤准教授は、セミナーにて「『再帰的研究者』の育成：総研大における大学院生のための STS 教育」というタイトルで、先導科学研究科の実施している STS 教育（科学・技術と社会）について発表しました。このセミナーには、USTの教員・学生だけでなく近隣研究施設の研究者も参加しており、発表終了後には活発な質疑応答がありました。

先導科学研究科生命共生体進化学専攻の佐々木研究科長及び五條堀講師は、オデッセイプログラムを視察しました。学生は5つのクラスにわかれ

授業を受けており、5クラスのうち3クラスは韓国語で、残り2クラスは英語で講義が行われていました。見学したクラスでは、仮想現実に関するレクチャーが行われており、担当教員が楽しそうに講義する中、参加学生が真剣な眼差しで講義を聴いている姿が印象的でした。

USTとは2002年10月から約15年の交流があり、現在では学生交流協定も締結されています。今回の訪問をきっかけに、USTと総研大の交流が今後も発展していくことが期待されます。

最後になりましたが、今回の訪問に際して歓迎いただいたUSTのKil-Choo MOON学長をはじめ、ご対応いただいたUST教職員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

【学融合推進センター・助教 内川明佳/国際・交流係/学融合推進事務室】

● プレスリリース

「明らかに変わった幻の流星群の構造と親天体の活動度

～第1次南極地域観測隊の発見から58年ぶりの観測」

8月25(金)、本学極域科学専攻(基盤機関:国立極地研究所:極地研)の大学院生である藤原康徳氏と中村卓司教授を中心とするグループがプレスリリースを行いました。解禁後、多くのメディアで掲載されました。

【メディア掲載】

- ・マイナビニュース「総研大ら、ほうおう座流星群の2014年観測結果から親天体の活動度を解明」
(<http://news.mynavi.jp/news/2017/08/25/220/>)
- ・財経新聞「58年ぶりに観測された幻の流星群」
(<http://www.zaikei.co.jp/article/20170829/395202.html>)
- ・EureAlert! (https://eurekalert.org/pub_releases/2017-08/nion-pms082417.php)
- ・Science alert
(<https://www.sciencealert.com/scientists-may-have-solved-the-mystery-of-the-disappeared-ring-phoenicids-meteor-shower>)
- ・TrendinTech
(<http://trendintech.com/2017/09/01/meteor-shower-from-dead-comet-sighted-again/>) 他。

プレスリリースの概要は下記のとおりです。

【概要】

藤原康徳氏と中村卓司教授を中心とするグループ、及び「かわさき宙と緑の科学館」の佐藤幹哉天文担当職員と国立天文台の渡部潤一教授を中心とするグループは、2014年12月の「ほうおう座流星群」の光学観測結果から、流星群の親天体である彗星の活動の歴史を明らかにしました。この流星群は、1956年に第1次南極地域観測隊がインド洋上で発見したのですが、それ以降の出現はありませんでした。2014年に再出現するとの予報に基づき観測を試みた結果、実際に活動を検出することに成功しました。さらに1956年と2014年の流星群の活動度を比較することで、親天体であるBlanpain彗星が、20世紀初頭には地球から彗星として観測されなかったものの、弱いながらも彗星として活動し、流星群のもとになるダストを放出していたことを明らかにしました。この結果は、彗星、小惑星、流星体等の太陽系小天体の相互関係や進化を研究する上で重要な知見となります。

藤原氏らの研究は日本天文学会欧文誌「Publications of the Astronomical Society of Japan」に、佐藤天文担当職員らの研究は学術誌「Planetary and Space Science」に掲載されます。

【発表論文】

[第一論文]

Optical observations of the Phoenicid meteor shower in 2014 and activity of comet



「ほうおう座流星群」の流星(画面左下) 2014年12月1日現地時間21時15分39秒(世界時:2時15分39秒)に出現したものの。画面中央から右下の明るい天体は月。Pentax K-3 + SIGMA 4.5mm F2.8、露出時間3秒。(撮影:戸田博之)(クレジット:国立天文台)

289P/Blanpain in the early 20th century

○掲載雑誌: Publications of the Astronomical Society of Japan

○著者:

藤原康徳(本学極域科学専攻)、中村卓司(総研大/極地研)、植原敏(日本流星研究会)、嵯峨山亨(日本流星研究会)、戸田博之(国立天文台岡山天体物理観測所)、NHK コズミックフロント取材班

[第二論文]

Detection of the Phoenicids meteor shower in 2014

○掲載雑誌: Planetary and Space Science

○著者: 佐藤幹哉(かわさき宙と緑の科学館*)、渡部潤一(総合研究大学院大学/国立天文台)、土屋智恵(国立天文台)、Althea V. Moorhead (NASA Meteoroid Environment Office, Marshall Space Flight Center)、Danielle E. Moser (Jacobs, ESSSA Group, Marshall Space Flight Center)、Peter G. Brown (Department of Physics and Astronomy, The University of Western Ontario)、William J. Cooke (NASA Meteoroid Environment Office, Marshall Space Flight Center)

* 論文投稿当時、現 日本流星研究会

研究内容の詳細については、下記の URL をご覧ください。

日本語 : <https://www.soken.ac.jp/news/38834/>

English : <https://www.soken.ac.jp/en/en-news/38848/>

【広報社会連携室】

● プレスリリース

「江戸時代のオーロラ絵図と日記から明らかになった史上最大の磁気嵐」

9月20日(水)、本学極域科学専攻(国立極地研究所)の片岡龍峰准教授、国文学研究資料館の岩橋清美特任准教授がプレスリリースを行い、多くのメディアで掲載されました。

【メディア掲載】

- ・ 朝日デジタル「太陽フレア?江戸時代にオーロラ 史上最大級の磁気嵐か」
(<http://www.asahi.com/articles/ASK9N3SJ6K9NULBJ006.html>)
- ・ 毎日新聞「江戸時代に史上最大の磁気嵐 当時の日記分析」
(<https://mainichi.jp/articles/20170921/k00/00m/040/081000c>)
- ・ 日本経済新聞「江戸時代に最大級の磁気嵐 京都でオーロラ、古文書記述と一致」
(https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG21H2I_R20C17A9000000/)
- ・ AstroArts「江戸時代の古典籍に記録が残る史上最大の磁気嵐」
(http://www.astroarts.co.jp/article/hl/a/9391_magneticstorm) 他。

プレスリリースの概要は下記のとおりです。

片岡准教授と岩橋特任准教授は、江戸時代の古典籍に残る記録から、明和7年(1770年9月17日)に史上最大の磁気嵐が発生していたことを明らかにしました。研究グループは今回、京都・東羽倉家の日記に1770年のオーロラの記録を発見し、その日記の記述をもとに京都からオーロラがどう見えるかを計算しました。その結果、『星解(せいかい)』という別の古典籍に描かれたオーロラの絵図(写真1、注1)の形状が再現されました。またこれにより、1770年の磁気嵐は、これまで観測史上最大と言われていた1859年の巨大磁気嵐と同等か、それ以上の規模であったと推定されます。

この成果は、アメリカ地球物理学連合の学術誌『Space Weather』に掲載されました。なお、本研究の一部は、総合研究大学院大学の学融合共同研



：『星解』に描かれた1770年9月のオーロラ。松阪市郷土資料室所蔵。三重県松阪市提供。

究事業および国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の一環として実施されました。

【発表論文】

Inclined zenith aurora over Kyoto on 17 September 1770: Graphical evidence of extreme magnetic storm

○掲載誌：Space Weather

○著者：

片岡 龍峰（国立極地研究所 宙空圏研究グループ 准教授／総合研究大学院大学 准教授）

岩橋 清美（国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター 特任准教授）

○URL：<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/2017SW001690/abstract>

【研究サポート】

本研究は、総研大の学融合共同研究事業、国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（歴史的典籍NW事業）」で実施されました。東丸神社所蔵東羽倉家文書の調査については、平成27年度科学研究費補助金 基盤研究(B)「近世における前期国文学のネットワークの形成と文化・社会の展開に関する学際的研究」(研究代表者：國學院大學 根岸茂夫教授、15H03242)のサポートを受けました。また、本研究の基盤となる1770年のオーロラ関連文献の収集においては、各地の文書館・博物館・図書館などの資(史)料保存機関にご協力いただきました。

【広報社会連携室】

● 学融合レクチャー「結晶の対称性・群論－基礎コース－」第2回

2017年7月31日(月)から8月4日(金)に、高エネルギー加速器研究機構(つくば)で学融合レクチャー第2回「結晶の対称性・群論－基礎コース」を開講しました(対称性・群論トレーニングコースとしては第6回目の開講です)。

本講座は「海外の著名な学者を講師として迎えた集中講義」です。一般に公開され参加者が募集されますが、募集開始から数時間から数日で満員となり、キャンセル待ちが相次いでしまう人気講座です。こうした人気に支えられて、2014年からこれまで6回の基礎コースと1回のアドバンスコースを開催、のべ約350の方が受講されました。講師のネスポロ・マッシモ先生(フランス・ロレーヌ大学教授)は、長年、国際結晶学連合理結晶学委員会委員長を務められ、毎年、世界各地で結晶の対称性や群論の講義をしている方です。先生は、かつて留学生として来日、結晶学の研究を行いました。日本語を習得されたおかげで、講義はすべて日本語で受けることができます。本講座の開講にあたって、講師旅費は国際連携推進事業(海外学生・研究者招聘事業)の支援を受けました。



初日の集合写真。5日間一緒に頑張りましょう。

結晶性物質の原子配列は回転対称性や並進対称性で表現されますが、それをまとめたのが結晶の群論です。一般に、結晶性物質の原子配列を明らかに(結晶構造解析)するためにX線回折、

中性子回折等を用いますが、得られた回折データを対称性と群論の知識を駆使して解析します。実際の解析はブラックボックス化したソフトウェアの支援で自動化できることが多くなりましたので、対称性と群論の知識がなくても解析できるようになりました。

しかし、ソフトウェアが何をやっているか理解しなくてもよいのでしょうか。いいえ、単純な構造に対して自動解析は有効ですが、複雑な構造や新物質を扱うと途端に壁を感じるようになります。これらについて考えるときには対称性と群論の知識が必要になります。また、原子配列は温度や圧力などの要因で変化（相転移）することがありますが、相転移前後の原子配列が群論から理解できることも多いです。他の人の解析の誤りに気づく場合もあります。



学生の質問に答えるネスポロ先生



リンゴをナイフでカットし（王様の切断-La coupe du roi）、対掌性をエレガントに説明していきます

高度な機能を持つ物質を開発することが求められるようになると、対称性と群論を自分で学ぼうとする若手研究者や学生が増えてきました。結晶構造解析はさまざまな研究現場で広く実施されルーチン化されましたが、その基礎となる対称性と群論は大学教育の中では簡素化されてしまいました。本講座が続いてきた背景には、「基礎的で必要とされることなのに大学では学べない内容を補うもの」としての位置づけがあったと思います。

それに基づいて講義形式で進んでいきました。

居室の制限のため、今回は受講者数を44名に絞りました。総研大生枠を設けおり、3名が受講しました。講義内容は以下のとおりであり、事前にインターネットで資料が配付され、

- 1 線形代数学, 抽象代数学,
- 2 ステレオ投影, 点群, 部分群, 剰余類・共役部分群・正規部分群, ラせん軸と並進鏡面,
- 3 計量テンソル, 対称操作の行列表現, 軸変換による空間群記号の変更,
- 4 正規化群, 対称性と対掌性, 消滅則の幾何学的解釈, ワイコフ位置と結晶軌道,
- 5 群と部分群

講義の一環として演習問題が頻繁に配布されました。受講者は、指名され発表を求められるので気を抜くことができません。一方、受講者からも頻繁に質問が出て、それに対してネスポロ教授が丁寧に説明するので、他の受講者にも大いに参考になりました。また、予習や復習なしだと未消化になりがちですが、演習問題の回答はその日のうちにインターネットで配布されるので、復習を助けてくれました。さらに、夜間に宿泊施設において質問コーナーが設置され、多くの受講者が参加しました。初日に懇親会、4日目にカレーランチが提供され、受講者の親睦や互いの勉学の励みにも効果的でした。5日間



毎日宿舎で夜の部があります。12時くらいになることも。



頑張って5日間を乗り切った学生には先生直筆の修了証が手渡されます

を乗り切った受講生には修了証書が授与されました。受講者の理解は受講前に比べて格段に深まりました。それでも繰返し受講する受講者も多く、そのことが知れ渡ることで受講人気を高めています。

今後、複数の「海外の著名な学者を講師とした講座」をパッケージ化し、総研大のカリキュラムとして定着させることで、総研大の独自性を示すことが可能ではないか、と考えています。

受講生の声 1

講義名が「結晶の対称性」ということで、受講者の顔ぶれはマクロな物質の研究者ばかりでしたが、この講義は素粒子物理学を志す学生にこそ有益なものだと思います。よく知られた「対称性の破れ」という言葉にも代表されるように、素粒子の理論は対称性を根幹として構築されており、群論が非常に大きな役割を果たします。私も群論の理解に不安があったためにこの講義を受講しました。マッシモ先生は講義の中で繰り返し、「モノと、モノの対称性とを区別して考えなさい」と強調されました。この点がまさに群論を学ぶ上で混乱しがちなところだと思います。モノは具体的に想像できますが、モノの対称性そのものをイメージとして思い描くことは難しいからです。しかし講義を受けて、結晶学は対称性を考えるにあたって多くの具体的なイメージを提供してくれる格好の教材だと感じました。対称操作の記号やステレオ投影といったグラフィカルな道具立てが整備されており、格子や原子の対称性が見て分かるようになっています。この講義では豊富な演習がありますが、図面に向かい手を動かし頭をひねることで、剰余類や共役部分群の持つ意味を感覚的に理解することができます。題材こそ結晶学ですが、その背景にある群論のトレーニングとして、素粒子・原子核の分野にも役立つ実力を鍛える良い機会となりました。この講義が他にもない高エネルギー加速器研究機構で開講されているのは意義深いことだと思います。

(高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻 実験的宇宙論グループ 田邊大樹)

受講生の声 2

コースの先生であるマッシモ先生は初日、元素記号が並ぶ深紅のネクタイをつけて、(結晶学における)群論の代数的側面を講義した。複数の言語を話す先生の日本語に惹きつけられながらも、あっという間に初日の8時間程に及ぶ講義が終わった。先生は一つ一つの説明に対し妥協をせず、時には熱くなりながらも、どんな質問にも全て授業中でも答えていた。コース参加者は物性、生物学、数学、物理学など様々な背景を持った方で学生から社会人、他大学の先生までも参加していた。コース中盤になると演習が始まり、全員が理解できなければ進まない状態でも、全員最後まで参加し続けたことはこのコースの雰囲気をよく表していると思われる。このコースの目標はInternational Tablesに乗っている空間群テーブルを対称操作が書かれた投影図から自身で導き出すことである。投影図から各対称操作を頭で各原子の位置を3次元空間で描きながら、書き出していく作業を通して徐々に感覚が養われていく。別の方法として、行列による対称操作表現も紹介され、プログラム作成にも役に立つ。最終的には理解できたということではなく、マッシモ先生は探求することを求めている。夕食の後も、1人1人の質問に宿の共同部屋で答えていた姿は印象的である。また、参加者もマッシモ先生同様に楽しみながらも真剣に取り組んでいて、参加者の意見や議論もとても参考になった。

最後に、参加者の多くがアドバンスコース開催を願っていることを加えておきます。

(高エネルギー加速器研究科物質構造科学専攻博士前期課程 降旗 大岳)

なお、今回の講義は以下のメンバーで実施にあたりました。

実行委員会：奥部真樹(東北大)、五十嵐教之、神山崇(高エネ・物構専攻)、高橋良美(KEK)
学内担当教員：神山崇、五十嵐教之(高エネ・物構専攻)、江原正博(構造分子専攻)、今川信作(核融合専攻)、大石雅寿(天文専攻)

【物質構造科学専攻・教授 神山崇】

● サマースクール 2017 「生命システムの時空間設計」開催報告

2017年8月17-18日、自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター主催、総合研究大学院大学「統合生命科学教育プログラム」後援で、Summer School 2017 “Biodesign of Living System ~observe, Read, Create the Life~”を開催しました。本スクールは日本のみならず世界から学生を招き、バイオサイエンスの最先端トピックについて講師の方々に講義していただくことを目的としています。

統合バイオサイエンスセンターは今年度で発展的解消し、来年度から新センターに生まれ変わります。今年度は新センターが目指すテーマ「生命をみる、よむ、つくる」を見据えた講義を企画しました。自然科学の基本は対象をよく「みる」ことであり、近年の技術の発展は個体内における生命構成素子(分子やオルガネラ)の動きを観察することを可能としました。また、計測の高

速化・自動化により生体試料から得られる膨大なデータから重要な時間的・空間的情報を「読み解く」必要性が生じています。さらに、生命とは何かを根源的に理解するには、積極的に生命を「つくる」という構成的アプローチが有効です。本サマースクールでは、これらの分野で活躍する研究者の方々に講師として招聘し、基礎から応用までの講義をお願いするとともに、次世代のバイオサイエンスについて議論を行いました。

具体的なトピックとしては以下の5セッションを企画しました(講師の肩書きは略称します)。Session 1. Homeostasis: 西田基宏(岡崎統合バイオ)、秋山修志(分子研)、Session 2. Metabolomics: 川出健介(岡崎統合バイオ)、水野初(静岡県立大)、Session 3. Principles of Multicellular Organisms: 高田慎治(岡崎統合バイオ)、戎家美紀(QBiC)、前多裕介(九州大)、Session 4. Nuclear Dynamics: 宮成悠介(岡崎統合バイオ)、樫田啓(名古屋大)、Session 5. 東島眞一(岡崎統合バイオ)、佐藤純(金沢大)。

本スクールには、日本、マレーシア、中国、タイ、バングラディッシュ、フランス、ベトナム、アメリカ、リトアニア、トルコ、ウズベキスタン、エジプト、インドと様々な国籍の学生および若手教員(*討論参加者として参加)が参加し、総勢97名(うち外国籍30名)に達しました(写真)。二日間に渡る講義では、討論参加者や学生から多数の質問が飛び出し活発に議論が行われ、とても活気あるスクールとなりました。すべて英語で行われましたが、大学院生や学部学生からも質問が出たことや、休憩時間にも日本の学生が今まで以上に海外の学生と交流を楽しむ姿が見られたことがとても印象的でした。二日目午後には岡崎統合バイオサイエンスセンターのラボ見学を行い好評でした。筆者自身も異分野の最先端研究に触れ、新センターでの研究教育活動につながる貴重な人脈も作ることができました。



【生理科学専攻・教授 西田基宏】

● 日本歴史研究専攻 公開講演会

8月26日に、秋田大学大学院国際資源学研究所附属鉱業博物館において、文化科学研究科日本歴史研究専攻の公開講演会「近現代の地域開発と社会変化」を開催しました。

秋田県は、鉱山開発が盛んに行われ、多くのところで鉱山を軸にした地域開発が展開しました。その後、鉱山が閉山になることで、地域のあり方は大きく変わり、さらに、大館や小坂などでは、鉱山が廃棄物の最終処分場に転用されました。このこと自体を地域社会と地域史のなかでどのように評価するかということ自体が大きな問題ではありますが、とりわけ3・11以降、これら最終処分場に、放射性物質によって汚染された焼却灰が持ち込まれるという事態に至りました。

講演会においては、高村竜平氏(秋田大学)が「鉱山地域の戦後史と3・11:秋田県大館市・小坂町の経験から」と題し、それぞれの地域をベースにこの問題を講演しました。そして原山浩介(文化科学研究科日本歴史研究専攻)が、「ゴミ問題、不可視



原山准教授講演風景

化の論理：地域問題としての廃棄物」と題し、ゴミを排出している首都圏の側から、この問題を論じました。これら報告に対して、吉葉泰行氏（秋田大学高等専門学校）と柴崎茂光（文化科学研究科日本歴史研究専攻）よりコメントをいただきました。

福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質が、首都圏の「ホットスポット」に降り注ぎ、これに汚染された一般廃棄物（家庭ゴミ）が焼却炉で濃縮されて、秋田県の最終処分場に運ばれるという一連の事態のなかに、地域の問題、都市部におけるゴミ処理の問題、そして原発および原発事故の問題が織り込まれています。討論では、これら諸論点をめぐって、活発なやりとりが行われました。

【日本歴史研究専攻】

● 平成 29 年度 JSPS サマープログラム報告会・送別会

JSPS サマー・プログラムで、アメリカ合衆国、英国、フランス、ドイツ、カナダ及びスウェーデンの 6 カ国から博士号取得前後の若手外国人研究者（フェロー）が全国各地の大学・研究機関での 2 ヶ月間の研究活動を終え、平成 29 年 8 月 22 日、東京九段下に一堂に会し、その研究報告会が行われました。



研究成果発表の様子

報告会では、長谷川真理子学長、家泰弘日本学術振興会理事の開会挨拶の後、各国の代表者 7 名から、2 ヶ月の研究成果に加えて、本国と日本の研究スタイルの違い、ホームステイ等の日本での文化交流についても報告があり、参加者からは研究分野を超えた活発な質疑応答が行われました。

送別会では、全国の受入機関からご出席頂いた研究者の方々や、6 月のオリエンテーションで素晴らしい講義と演奏をして頂いた作曲家の安藤政輝先生もご参加頂きました。

永田敬理事による乾杯の発声の後、約 170 名が参加する締め括りにふさわしい盛大な会となりました。送別会の途中では、数年前の本プログラム修了生で、再来日中の JSPS

外国人特別研究員 2 名の発表があり、日本での研究生活、JSPS の研究助成について等、フェローにとって興味深い内容でした。

送別会の終盤には、フェローのこの 2 ヶ月間の全国各地での研究活動の様子、文化体験等の写真が上映され、最後まで名残惜しく語り合いが続きしました。最後に、中村幸男理事から、「今後も、日本の研究者との関係を継続していただき、また日本でお会いしましょう」との閉会挨拶がありました。

多くのフェローが日本到着後行われる本学の所在する葉山でのオリエンテーションで日本語授業、日本文化紹介や日本人家庭でのホームステイを体験し、異なる研究分野のフェローと国籍を超えた交流を築けたことにより、その後の日本での生活がより充実したとのこと。今後とも本プログラムが学术交流の国際化を促進させる取り組みであることを祈念いたします。



送別会の様子

今回のサマー・プログラムで基盤機関及び先導研に配属されたフェロー達から感想を寄せてもらいました。

“The most impressed thing in this program”

オリエンテーションプログラムは広範囲にわたっており、色々な人に出会えるいい機会となりました。特に社会的側面からみて、これからの 2 ヶ月間の研究生活にあたりいいスタートが切れました。
(Jeffrey Brooks, 生理学研究所 / New York University, NSF)

” What are differences between Japanese laboratory and your country’s laboratory?”

研究室の環境はとても似ていますが、大きな違いは、学生は研究室に遅く来て遅くまでいることと

研究に対しても専念していることです。

(Christopher Sprague, 宇宙科学研究所 / Rensselaer Polytechnic Institute, NSF)

"How was your research through this program?"

自分の研究がこんなにうまくいくとは思いませんでした。研究室のメンバーはサポートティブで、効率よく研究ができたので、短期間の滞在でも大変成果が上がりました。

(Lotte Watts, 国立遺伝学研究所 / University of Aberdeen, BC)

"About orientation sessions"

総研大でのオリエンテーションは、新しい環境に慣れていくよう調整ができ、さまざまな分野のフェローと出会い、素晴らしい経験でした。日本語授業は、会話や自己紹介をしながら、更にスムーズに話せるように練習したのでとても有益でした。日本文化紹介は一生に一度の経験だと思います。

鎌倉観光に行った日は、私の誕生日だったので、初めての場所を訪れ、素晴らしい人々と共に祝うことができ楽しいひとときでした。

(Kimberly Cory, 国立極地研究所 / West Texas A&M University, NSF)

"A short message about this summer program"

このプログラムは、科学に対する私の人生観を変え、国際的な共同研究に発展させるモチベーションと機会を作ることができました。ここでの研究は、論文を完成させるために大きく貢献し、将来にわたる多く研究の基礎を築くことができましたと思います。

(Melissa Plakke, 先導科学研究科生命共生体進化学専攻 / University of Pittsburgh, NSF)

【国際交流係】

● 科学研究費助成制度等説明会

9月27日に日本学術振興会研究事業部研究助成第二課の脇野崇課長を講師に招き、「科学研究費助成制度等説明会」を葉山キャンパスで開催し、教職員約50名が参加しました。



日本学術振興会の脇野課長

この説明会は、平成30年度科研費獲得に向けて科研費制度の概要及び最新の動向について教職員の理解を深めること等を目的に実施したものです。

永田敬理事・副学長による開会挨拶の後、前田輝伸財務課長から、研究費の不正使用防止について、近年の事例を交えて説明があり、続いて、脇野課長から、科研費制度の概要、平成30年度公募・審査の変更点について詳細な説明がありました。

科研費の新たな審査区分・審査方式、研究計画調書の記載内容変更等についての教職員の理解が深まり、有意義な機会となりました。

【研究協力係】

受賞

○複合科学研究科 統計科学専攻 田村義保 教授

- ・「平成28年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員」として、学術振興会から表彰。
- ・日本統計学会において「第13回日本統計学会統計活動賞」を受賞。

○先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 西條未来さん

日本鳥学会2017年度大会で「ポスター賞」を受賞。

賞の概要：これからの日本の鳥類学を担う若手会員の発表を奨励するため、日本鳥学会大会

で優れたポスター発表を行った若手会員に日本鳥学会ポスター賞が授与される。
受賞業績：「チドリ目における対捕食者行動の決定要因：種間比較による検討」

受賞コメント

先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 西條未来さん
(杏掛研究室・D1)

この度は鳥学会ポスター賞(生態・行動分野)をいただき、大変うれしく思います。この賞を励みに、これからも頑張って研究していきたいです。



西條さん(左)と西海功学会長



地面で抱卵しているシロチドリ

イベント情報

○平成 29 年度後学期フレッシュマンコースを開講

この度、平成 29 年度 10 月入学の新入生を主たる対象に、総研大フレッシュマンコースを開講します。本コースは、合宿型の集中講義です。「研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶこと」、「総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築くこと」を目的としています。

日 時：平成 29 年 10 月 10 日(火)-13 日(金)

対 象：

・必修科目－物理科学研究科・複合科学研究科・生命科学研究科・先導科学研究科の学生
(ただし、平成 29 年度後学期より、統計科学専攻の博士課程(3 年次編入学)入学者については、選択科目となる予定)

※特別な事情により、受講できない新入生は、次年度以降のフレッシュマンコースを必ず受講して下さい。

・選択科目－文化科学研究科・高エネルギー加速器科学研究科

場 所：総研大葉山キャンパス

受講手続きは既に締め切っています。

問い合わせ先：総研大フレッシュマンコース実施事務局 (Mail to : fc2017@ml.soken.ac.jp)

詳細については、下記 URL をご確認ください。

日本語 : https://www.soken.ac.jp/event/20171010_13

English : https://www.soken.ac.jp/event/20171010_13eng/

フレッシュマンコースについては、下記の web ページも併せてご覧下さい。

日本語 : https://www.soken.ac.jp/activities/interdep_program/freshman_course/

English : https://www.soken.ac.jp/en/activities/interdep_program/freshman_course/



○国際日本研究専攻 大学院入試説明会

日 時：平成 29 年 10 月 25 日(水) 13:00-15:00

場 所：国際日本文化研究センター
(京都市西京区御陵大枝山町 3-2)

内 容：入学試験の説明、現役大学院生による日文研ツアー、学生生活・研究活動に関する質疑応答

申 込：要事前申込

申込方法については以下の URL よりご確認ください。

URL：http://www.nichibun.ac.jp/ja/education/graduate_s.html



○遺伝学専攻大学院説明会 (国立遺伝学研究所公開講演会、同時開催)

日 時：平成 29 年 10 月 28 日(土) 12:30-16:10 (12:00 開場)

場 所：一橋講堂 学術総合センター2 階 (東京都千代田区一ツ橋 2-1-2)
(東京メトロ「神保町駅」または「竹橋駅」より徒歩 4 分)

概 要：遺伝学専攻の大学院説明会を実施します。公開講演会が同日開催されますので、最先端の生命科学研究について興味のある方は是非ご参加ください。講演者の他にも、20 名近い遺伝研の研究者が会場に集結し、パネル展示を行います。

対象：広く一般の方、大学院への進学を検討している方

プログラム：

12:30 所長挨拶 (桂 勲)

12:35 講演 1「ヒトの細胞が分裂するしくみ」

教授 北川大樹 (遺伝学専攻/中心体生物学研究部門)

13:15 講演 2「植物の形作りと作物育種」

教授 佐藤豊 (遺伝学専攻/植物遺伝研究室)

14:05 研究者によるフレッシュトーク (パネル展示内容を各研究者が 1~2 分で説明)

14:45 大学院のご案内 (学生生活について遺伝学専攻の大学院生がご紹介します)

15:00 パネル展示 1 (遺伝研の研究成果をパネル紹介、研究者と直接対話できるチャンス!)

15:40 パネル展示 2 (大学院を目指す方向け、パネル紹介)

16:10 終了

参加費：無料

申込締切：10 月 26 日(木) 15:00 (当日参加も可能)

講演内容、申込方法等の詳細については下記の URL よりご確認ください。

<https://www.nig.ac.jp/kouenkai/kouenkai2017/index.html>



○日本歴史研究専攻 大学院説明会

日 時：平成 29 年 10 月 29 日(日) 13:00-16:00

場 所：国立歴史民俗博物館 大会議室
(〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117)

内 容：入試説明、大学院説明 (13:00-13:30)、研究施設・院生研究室・所蔵資料見学 (13:30-15:00) 及び、各分野教員・在学生との懇談 (15:00-16:00)

申 込：参加料無料、事前申込不要

○情報学専攻 大学院説明会

日 時：平成 29 年 11 月 1 日(水) 18:00-20:00

場 所：東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 国立情報学研究所 (学術総合センタービル) 19 階会議室

内 容：情報学専攻の概要、出願方法、学生生活の紹介、個別相談会

申 込：要事前申込 申込方法については以下の URL よりご確認ください。

U R L：<http://www.nii.ac.jp/graduate/entrance/guidance/>



○統計科学専攻 大学院説明会

日時：平成29年11月2日(木) 14:00-16:00

場所：統計数理研究所(立川)2階 会議室1
(〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3)

内容：入試ガイダンス、カリキュラムの説明、学生による学生生活と研究テーマの紹介、入学希望者の個別相談、研究室訪問など。

※事前申込は不要です。

詳細は、下記のURLをご覧ください。

<http://www.ism.ac.jp/senkou/setsumeikai.html>

○先導科学研究科 学術講演会(第20回)

日時：平成29年11月3日(金) 10:00-12:00

場所：葉山キャンパス 2階講堂

内容：「ヴェールの向こう側—科学は我々に何を教えるのか」

(助教 大西勇喜謙)

「キューバに住むならどこに住む？」

—アノールトカゲの多様性と生息地選択—

(特別研究員 赤司 寛志)



○生命科学研究科 基礎生物学専攻 オープンキャンパス・大学院説明会

日時：平成29年11月11日(土) 13:00-17:30 (受付 12:30~)

場所：基礎生物学研究所 明大寺地区

内容：専攻・入試・授業等カリキュラムの説明、研究室紹介(大学院生募集の各研究室3分ずつ説明)、総研大生の生活について、部門・研究室見学(3ヶ所程度)

○2017年先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 講演会・説明会

日時：平成29年11月18日(金) 13:00-17:00

場所：御茶ノ水トライエッジカンファレンス 会議室 11階

内容：専攻説明、カリキュラム・入試説明、専攻教員による最新の研究紹介など。

※事前予約は不要。

<シンポジウム・国際会議情報>

○総研大文化フォーラム2017 文化をくはかる—文化科学へのまなざし—

日時：平成29年12月2日(土)-3日(日)

場所：国立歴史民俗博物館(〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117)

(<https://www.rekihaku.ac.jp/information/access.html>)

[開催趣旨]

〈はかる〉という日本語は、理数的な意味での「測る」の他、「図る」、「諮る」など、多様な意味を持っています。私たちが所属する文化科学研究科は、歴史学、文学、文化人類学、民俗学、考古学など多様な学問領域を包摂しており、それぞれに異なる問題関心、対象、方法のもとに研究を行っています。

昨年度より総研大全学事業として再出発した文化フォーラムは、文系のみならず理系の研究者も参加する学融合の場でもあります。したがって、ここではスタンスの異なる研究者たちがそれぞれのものの見方・考え方について、意見を「諮る」ことが可能となるでしょう。

歴博の魅力を活かした企画を盛り込みつつ、研究科の垣根を越えた、実り多い交流の機会となるよう準備を行っております。多くの方々のご発表、ご参加を心よりお待ちしております。

(開催趣旨より一部抜粋)

[実施プログラム(予定)]

12/2(土) 13:30 開会式

13:45 シンポジウム 文化と知を「はかり」「つなげる」

—総合資科学という試み— (講師：後藤 真・橋本 雄太(歴博)他)

15:30 ポスター発表
17:30 懇親会
12/3(日) 9:30 口頭発表
11:30 閉会式
11:40 休憩 (総合展示見学可)
13:30 歴博ツアー (展示解説、施設見学)



参加資格：総研大学生、教職員及び参加を希望し文化科学研究科が認めた者。
※学生の場合、本フォーラム参加について指導教員へ事前報告が必要。

参加登録期間：聴講参加申込は既に締め切りました。
旅費・参加申込方法などの詳細については、下記 URL をご覧ください。
<https://www.soken.ac.jp/event/bunkaforum2017/>

○世界天文コミュニケーション会議 2018 in 福岡

日時：平成 30 年 3 月 24 日(土)－28 日(水)
場所：福岡市科学館 (福岡市中央区六本松 4-2-1 六本松 421 内)
概要：

世界天文コミュニケーション会議 (CAP) は、天文学に携わる総ての人と一般社会とのコミュニケーションに関する最近の取り組みについて、様々な意見や経験を交換する場として、2005 年に設立された国際会議です。この会議を通じて、効果的で実績のある数多くの科学コミュニケーション事例が紹介されています。(プログラムは基本的に英語で進行)

CAP で得られる知見を参加者が母国に持ち帰ることで、各国における天文学・天文科学文化の発展、市民参加の推進などが期待され、すべての参加者の活動の幅が広がることが期待できます。国境を越えて、言葉や習慣、信仰や信条の違いを乗り越えて人類が一つになっていくことに寄与することが本会議の目的の一つです。(CAP2018 の web ページ「世界天文コミュニケーション会議とは」より抜粋)

トピックス：天文コミュニケーションの課題、実践例、天文コミュニケーションにおけるメディアの役割他。

参加登録：発表申込受付終了 平成 29 年 10 月 15 日 (発表審査・結果告知 11 月 30 日)
早期参加登録 受付終了 12 月 15 日
参加登録 (通常) 受付終了 2018 年 2 月 28 日

※参加費及び参加登録については、CAP2018 web ページにてご確認ください。

CAP2018_web サイト：<http://prc.nao.ac.jp/fukyu/cap2018/#topics>

レクチャー情報

<学融合レクチャー情報>

○学融合レクチャー「プロジェクトマネージメント概論」

プロジェクトマネージメントの基礎、大型プロジェクトの実施例について広く学び、プロジェクト運営能力や課題解決能力の向上を目指します。

日時：平成 29 年 11 月 13 日(月)－15 日(水)

場所：宇宙航空研究開発機構 筑波宇宙センター

単位：1 単位 (使用言語：日本語)

講師：長谷川義幸 (元 JAXA 国際宇宙ステーションプログラムマネージャー)

担当教員：榊原悟 (核融合科学専攻・教授)、松原英雄 (宇宙科学専攻・教授)、稲富裕光 (宇宙科学専攻・教授)、石川毅彦 (宇宙科学専攻・教授)、板尾太郎 (宇宙科学専攻・准教授)、宇野彰二 (素粒子原子核専攻)。

申込期日：平成 29 年 10 月 13 日(金)

申込方法：左記 URL よりご確認ください。<https://www.soken.ac.jp/event/20171113/>

●その他の基盤機関の行事

10月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
開催中- 11月14日 (火)	10:00-17:00	開館40周年記念新着資料展示「標 交紀(しめぎゆきとし)の咖啡(コーヒー)の世界」 国立民族学博物館 ナビひろば	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/shimegi20170928/index
開催中- 11月26日 (日)	09:30-16:30	くらしの植物苑特別企画「伝統の古典菊」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	
開催中- 12月5日(火)	10:00-17:00	開館40周年記念・カナダ建国150周年記念企画展「カナダ先住民の文化の力—過去、現在、未来」 国立民族学博物館 企画展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/canada20170907/index
11日(水)- 12月10日 (日)	09:30-16:30	企画展示「1968年—無数の問いの噴出の時代— 国立歴史民俗博物館 企画展示室	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html
開催中- 1月8日 (月・祝)	09:30-16:30	特集展示「国立公園 今昔」	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/special/index.html
11日(水)- 12月16日 (土)	10:00-16:30	特別展示「伊勢物語のかがやき—鉄心斎文庫の世界—」 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/isemonogatar.html
11日(水)	11:30-12:15	展示ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/isemonogatar.html
11日(水)	13:30-15:30	伊勢物語セミナー 国文学研究資料館 2階オリエンテーション室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/isemonogatar.html
13日(金)、 14日(土)	10:00-19:00	三鷹・星と宇宙の日 2017 国立天文台三鷹キャンパス	https://www.nao.ac.jp/openday/2017/
14日(土)	13:30-16:30	開館40周年記念みんなく映画会 台湾文化光点計画 台湾映画鑑賞会—映画から台湾を知る「祝宴!シェフ」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/movies171014taiwan
15日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「ペルーの文化遺産を守る」 国立民族学博物館 第3セミナー室(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/485
17日(火)	16:30-	市民公開講座 第114回分子科学フォーラム「世界に広がるファインバブルサイエンス」 会場: 岡崎コンファレンスセンター	https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2017/07/25_3746.html
21日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「ジョージ・ブラウン・コレクションの軌跡をたどる」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/473
21日(土)	10:30-16:00	第107回歴史博フォーラム「戦後社会運動のなかの『1968年』」 国立歴史民俗博物館 講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/forum/index.html
21日(土)	13:15-	4D2U定例公開「衝突する銀河」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
21日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「ジョージ・ブラウン・コレクションの軌跡をたどる」 国立民族学博物館 講堂	

22日(日)	13:00-15:30	【企画展関連】みんなくワークショップ「カナダ先住民イヌイトのステンシル版画を作ろう」 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)、本館企画展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/canada20170907/index
22日(日)	14:30-15:30	【新着資料展示関連】みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「心の扉を開ける鍵としてのコーヒー—パレスチナ・イスラエルでのフィールドワークから」 国立民族学博物館 本館展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/486
28日(土)	10:00-16:30	日文研一般公開「日文研の30年」	http://events.nichibun.ac.jp/ja/archives/kohkai/cal/2017/10/28/index.html
28日(土)	12:30-16:10 (12:00会場)	国立遺伝学研究所 公開講演会2017 学術総合センター2階 一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)	
28日(土)	13:30-15:30	第223回くらしの植物苑観察会「秋の観葉植物」国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html
28日(土)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体:海王星> 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/
29日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「フィールドワークとケガーベトナム西北部調査より」 国立民族学博物館 本館展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/487
31日(火) - 11月6日(日)	09:30-16:30	くらしの植物苑特別企画「伝統の古典菊」国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/project/index.html

11月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
2日(木)	11:30-12:15	展示ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/isemonogatar.html
2日(木)	13:30-15:30	伊勢物語セミナー 国文学研究資料館 2階オリエンテーション室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/isemonogatar.html
3日(金・祝)	13:00-17:00	公開フォーラム「世界の博物館2017」 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)	
3日(金・祝)	未定	三鷹キャンパスガイドツアー 国立天文台三鷹キャンパス	
4日(土)、5日(日)	10:00-17:00	太陽塔望遠鏡特別公開 国立天文台三鷹キャンパス	
4日(土)	13:15-	4D2U定例公開 アストロノマー・トーク 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/

4日(土)	13:15-	4D2U定例公開 アストロノマー・トーク 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
5日(日)	13:30-16:00	みんなく映画会 みんなくワールドシネマ—映像から考える<人類の未来>「火の山のマリア」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/movies1711
5日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	
8日(水)		開館40周年記念式典 国立民族学博物館 講堂	
10日(金)	13:15-	4D2U定例公開「衝突する銀河」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
10日(金)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体：天王星> 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/
11日(土)	13:15-	4D2U定例公開「衝突する銀河」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
11日(土)	13:00-15:00	第404回歴博講演会「全共闘とは何だったのか—歴史所蔵資料から見える世界—」国立歴史民俗博物館 講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
11日(土)	13:30-16:30	研究公演「めばえる歌—民謡の伝承と創造—」 国立民族学博物館 講堂	
12日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	
14日(火)	14:00-16:00	第314回日文研フォーラム ハートピア京都3階大会議室	
17日(金)	18:30-20:40	公開講演会「人間にとって料理とはなにか」(仮) 国立民族学博物館 日経ホール(東京)	
18日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「仮面の世界をさぐる—アフリカ、そしてミュージアム」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/474
18日(土)	13:30-15:30	第31回歴博映画の会「ドキュメンタリーフィルムで見る三里塚2」国立歴史民俗博物館 講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/movie/index.html
19日(日)	14:00- (13:30開場)	KEK科学と音楽の饗宴 第1部講演「進化論から進化学へ：進化する進化論」長谷川真理子総研大学長 第2部トークコンサート「科学と共に進化する音楽」山岸ルツ子—ピアノ— ノバホール(つくば市吾妻1-10-1)	https://www2.kek.jp/kyoen/2017/

25日(土)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体：天王星> 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/
26日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	
30日(木)		ミンパク オッタ カムイノミ(みんなくでのカムイノミ) 国立民族学博物館	



【広報社会連携室から】

○総研大は、来年2018年に創立30周年を迎えます。

10月1日の創立記念日を中心に、式典の開催、修了生による講演会、ロゴ・スローガン・キャラクターの作成、寄付口座の開設及びホームカミングデーの開催などを考えています。これらにつきご意見のある方、また、これら以外のアイデアのある方は、30周年事業担当の田村学長補佐 (katsumi_tamura@soken.ac.jp)、あるいは、広報社会連携室 (kouhou1@ml.soken.ac.jp) まで、ご意見をお寄せください。

○神奈川新聞コラムページをリニューアルしました。

神奈川新聞掲載コラムページをリニューアルしました!このページでは、2016年6月から2017年5月まで全24回にわたり神奈川新聞で連載した「総研大発 最先端の現場」のコラム記事を掲載しております。なお、掲載時から一部加筆・修正(写真の差替え)しておりますことをご承知おきください。

新聞コラム：<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/column/>

-メディア・イベント出演情報-

○長谷川学長のコラム「時代の風」が毎日新聞にて連載中です。

長谷川学長は2016年4月から、毎日新聞に「時代の風」というコラムを連載(6週間に1回)しています。紙面に掲載された連載記事の内容は、本学HPからも読むことができますので、ご興味のある方は一読下さい。(10月11日(水)現在、第13回目(毎日新聞8月27日掲載分)までご覧いただけます。) 本学HPのトップ画面の「学長通信」のバナーからぜひご覧下さい。

— 時代の風 (毎日新聞掲載コラム) —

https://www.soken.ac.jp/outline/message_index/hasegawa_mariko/kaze/

○日本文学研究専攻の西村慎太郎 准教授のインタビューが「教えて! goo ウォッチ」に掲載されました。

「平安貴族のお給料はいくらだった?」

<https://oshiete.goo.ne.jp/watch/entry/33db514cec1e0d8c4b2d237bd96f3346/>

「洗濯するのは身分の低い者だけ? 平安時代の洗濯事情」

<https://oshiete.goo.ne.jp/watch/entry/62255621175a0de4c8b1e81c365bbc0c/>

○情報学専攻の武田英明教授のインタビューが「IT Leaders」に掲載されました。(9/22付)

「文献検索システム「I-Discover」から考えるオープンデータ時代の共創のあり方と学会の役割」

<http://it.impressbm.co.jp/articles/-/14969>

○学融合推進センターの塚原直樹助教の研究内容が新聞に掲載されました。(河北新報)

「<迷惑カラス>鷹匠、箱わな…効果いまひとつ ドローンと音で誘導実験へ 山形市、仙台市と連携」(9/1付)

http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201709/20170901_73009.html

「<カラス対策>ドローンと音声で誘導実験 鳴き声作戦に手応えアリ」(9/20付)

http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201709/20170920_53013.html

○広報特派員の募集について

広報社会連携室では、広報特派員を募集しております。総研大の広報活動にご協力いただける学生さんの応募をお待ちしております。

詳細につきましては、下記URLをご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/information/corres/>

【編集後記】

総研大ニューズレター第111号をお届けします！！

4月に春のフレッシュマンコースを開催したと思ったら、時が経つのは早いもので10月のフレッシュマンコース開催時期になりました。この文章を書いている10月第1週目は、翌週の開催に向けた準備の真っ最中です。

10月に入り寒さを感じるようになりました。毎朝、天気予報を確認すると、「〇〇地域は今季一番の寒さとなります。」や「昨日、〇〇市は今季一番の寒さでした。」と伝えられており驚いています。四季のうち秋の期間が短くなったように思います。10月第1週は気温が低く雨の日が続きましたが、フレッシュマン期間中、葉山は晴れの予報で、ひとまず安心しております。

広報社会連携室 E・A

広報社会連携室では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携室までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2017年10月11日
編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）
広報社会連携室
TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1632
Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp
※(at)は@に変換してください。

©2017SOKENDAI